

黒部川洪水想定 避難所開設訓練開催

1. 富山県の洪水災害の傾向

地球温暖化の影響を受けて、海水温度が毎年高くなり、その範囲も拡大しつつあります。結果、海水の蒸発量が増え線状降水帯の発生につながっています。富山県の洪水災害を見てみると、徐々に富山県西部から富山県東部へと広がりの傾向にあります。



2. 避難所開設訓練の実施 11月17日(日) 9:00~11:30



受付の様子



居住スペース作り



女子更衣室・授乳室



ダンボールベットの組立

3. 黒部川洪水ハザードマップ

黒部川洪水のハザードマップから、飯野地域は0.5m~3m未満の地区と3m~5m未満の地区があります。0.5m~3m未満の地区は、洪水発生時に垂直避難（2階に避難）が可能となっています。一方3m~5m未満の地区は、高畠、芦崎、報徳、園家、高瀬となっており、垂直避難が不適のため飯野小学校の2階と3階が避難所になります。



4. 訓練から見えてきた課題

避難所の開設になると1階は使用できないため、2階と3階のワークスペースを避難者に使っていただくことになります。更衣室、救護室、授乳室は空き教室を使います。今回は、小学校の協力を得てワークスペースに展示されている児童の作品等を事前に教室へ移動していただきました。洪水災害は、時間的に余裕があるもののレイアウト作りに多くの人手がかかります。また、訓練を通してワークスペースに敷くゴザが半分しかないことも分かりました。これらの課題や他の問題を関係者で話し合っていきます。



大地震の発生に備えて何をすべきか

昨年1月に起きた能登半島地震、8月には宮崎県日向灘を震源とするマグニチュード7.1の南海トラフ一部割れ地震が発生し、南海トラフ臨時情報が出されました。そして、日向灘で今年の1月13日に再びマグニチュード6.9の地震が発生しました。

能登半島地震の余震が収束しないことや南海トラフ地震から地震への関心を持っておられる方が多いと思います。



1. 入善町地震ハザードマップ（ゆれやすさマップ）

入善町ゆれやすさマップにおいて、入善町で発生する地震の想定がされています。

- (1) 入善町直下で地震が発生した場合
マグニチュード：6.9 想定最大震度：6弱～6強
- (2) 魚津断層帶で地震が発生した場合
マグニチュード：7.3 想定最大震度：6弱～6強

今後30年以内に魚津断層帶による地震が発生する確率は、0.4%以上とされています。南海トラフ地震の発生確率は、今年80%に引き上げられました。

2. 建築基準法の改正



1981年6月（昭和56年）に建築基準法が改正されました。その後、1995年に発生した阪神・淡路大震災による甚大な被害結果を基に、さらに建築基準法が見直され、2000年に現在の建築基準法になりました。「2000年基準」とも呼ばれています。

1981年～2000年に建てられた木造住宅は、現行の基準に満たしていない可能性があります。

3. 地震が発生した時、家のどこが安全か



建築基準法の改正によって耐震化が強化されました。木造住宅において、2000年基準に満たない住宅と耐震化が考慮された住宅とでは、地震が発生した時に避難する場所が違ってくることに注意しなければなりません。

- ・2000年以後に建てられた住宅 → 1階に避難（外への避難を考えて）
- ・2000年以前に建てられた住宅 → 2階に避難（建屋の押しつぶれを考えて）

4. 地震が発生した時に備えて

地震が発生した時に、家具類の転倒・落下で怪我をした人の割合は、過去の地震統計から30%～40%となっています。そのため、家具類の固定が有効な手段となっています。出入口のドア付近や寝室の家具類の倒れる方向を変えるのも一つの方法です。

また、地震時に家具類の転倒を防ぐ行為は、行ってはなりません。家具類の上に物を置かないようにしたり、重いものを下の引き出しに入れるようにすることも地震対策につながります。

